

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と介護者が共に寄り添い、喜びや、悲しみを感じ合い、安心して生きる力を応援する、考えに基づく理念を掲げ、全員でそれを目指している。	○ 地域の中の一軒やを目指して取り組んでいるが、理念の中にそのことを掲げていないので、今後盛り込む必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールと台所に掲示しており、朝の申し送り時には唱和し、心に刻み、常に理念に立ち返るように心がけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会などで、資料に提示したり、ホーム便りの中にも提示している。	○ 今後はホーム外に配布する広報誌にも紹介していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くに民家がなく、むずかしい面もあるが、隣のビニールハウスで働く夫婦と話したり、移動販売の人と馴染みになったり、地域のスーパーで食材を求めたり、定期的に外食に行く店の人と馴染みになり、声を掛けて貰っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園よりホームの催事に参加して貰ったり、又、保育園の催事に参加したりして、交流ができています。	○ 自治会や地域活動に参加出来るように取り組む必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の認知症の家族の会に参加している。	○	介護教室の開催。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を機会に日々の実践の反省と励みにして、原点に立ち返る機会とし、全員で自己評価に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動の報告をして、意見を求めているが、意見が出るまでは行かない。	○	もう一步踏み込んで意見を戴き、サービス向上に活かせるような、有意義な会に出来るように取り組む必要がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	納涼祭などの催事の案内を出したり、諸々の相談をしたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、知識としてはある。	○	事業や制度について理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加もし、絶対あってはならないという認識は強く、スタッフ全員で務めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時に必ず説明し、理解していただき、一部変更の際は再度説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	窓口として、掲示をし、用紙とペンを常に設置している他、家族会、面会時に担当者を通じて受け入れ、全職員で共有し改善に努めている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	家族の面会時や毎月の担当者からのお便りや、ホーム便りで報告している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情を申し立てる機関を掲示し、家族会で説明している。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に一度は必ず職員会議をし、意見の交換や、改善を話し合っている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の状況に合わせて、職員で話し合い、勤務時間帯の変更などや、調整に努めている。	○ 入居者の能力低下により、充実が必要な時間帯に合わせて、勤務時間の変更もしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人さんの目線になりよくお話を聞き、分かりにくい言葉からも心を受け止めるよう傾聴するように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員の日頃から家族とのコミュニケーションを満たすという姿勢が出来ていてお手紙や電話などを各受け持ちを中心に心がけていて気軽に受け止める雰囲気を作る努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員で検討している。家族と話し合い1ヶ月間のお互いに見極める期間を作り、話し合いの下で検討した例もある。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、本人希望で、いつでも帰宅できるようにしている。家族にも、なるべくホームに面会に来てもらい、デイサービスの馴染みの職員にも協力を得て、自然に馴染める環境づくりに努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	業務に追われたための言動に対して忘れてくれたり、笑顔で返してくれたりする入居者に「許していただいているんだ。助けていただいているんだ」と言う言葉を耳にする。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の受け持ちを中心に、コミュニケーションを図り、月に一回以上は手紙にて家族の協力に対して、ねぎらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れて暮すことにより、感謝の言葉が聞かれたりする事を家族に伝えたり、面会時には少しでも長い時間居室で過ごしてもらえようとお茶を出したりして努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力をしてもらっている。ホームにも遊びに来てもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めている。居室に居るよりもリビングにて、くつろぐ方が長くその間に職員が入り、関り合えるよう支援し、時には居室に遊びに行く支援をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしたいと思っているが実際には出来ていない。	○	積極的にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人及び家族から希望・意向を聞き、それに添うように努めているがホームで暮らしながら家族に情報を伝えその中で意向を受け取っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネージャー面会に来た友人・知人、親戚等からの情報により、把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出勤時に申し送りノートや経過記録に目を通し、又、交代の時の申し送りで、各入居者の様子、心身状態を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	穏やかな日々が、過ごせる様に本人を十分理解して、多くの情報を取り入れて、計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状の悪化や薬の副作用から不穏状態を察知して、即、対応している。	○ 入居者受け持ちを中心に、その都度ミニカンファレンスをし介護・援助しているが、計画を作成するという形にする能力が、スタッフには少し足りないので強化して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各時間帯でその時の様子や変化を個別に記録し職員全員で情報を共有しさらに引継ぎの際は口頭で申し送りをして実践に活かすようにしている。	○	出勤時には記録に必ず目を通すように義務づけている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスを利用しホームだけではおぎなえない心の安定を得る事が出来ている。	○	認知症の浅い入居者は「話し相手が居ない」と孤立しがちだが、デイサービスの利用者と友達になりその方が来るのを楽しみにしている。又、妻がデイサービスを利用して利用時にデイで共に過ごしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議から発信し協力をお願いしている。ホームの行事に参加していただいたりしているが充分とは言えない。	○	町主催の文化祭に出展を目指し作品づくりに取り組んでいる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険の様では利用できないので併設しているデイサービスは、ホームのスタッフ同伴で利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいているので今後の課題にしたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の受診は、全員かかりつけ医となっていて、家族に対応して貰っているが、変化については、記録を提供したり、スタッフが同伴し、状態を説明したりしている。	○	必要に応じては、日々の様子を正しく伝えられる、スタッフの同伴を実施し、介護上での注意点など、アドバイスを受けている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医として、脳神経科にお願いしている。かかりつけ医として、利用している入居者もいる。	○	職員が相談したりする関係までは、築けていないので、今後取組んでいきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持っているスタッフがいるので、フォローしてもらっている。他に、事業所内に数名の看護職が勤務しているので、相談に応じて貰っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフは、出来る限り病院に面会に行き、話し相手になったり、食事介助をしたり、家族の困っている事を聞いて支援したりしている。又、病院側の担当者と蜜にコミュニケーションを取り、ホーム側の受け入れの際の、注意点など、アドバイスを貰っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要と思い、勉強、検討中。なるべく、本人、家族に添うように、応じていきたいと考えている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の意向に添って、支援して行きたいと考えているが、準備までには至っていない。	○	終末期を念頭に置いて、かかりつけ医に家族と一緒に会い、意向をお願い出来ているケースもある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や、そのケアマネージャーを交えた話し合いを行い、引継ぎや、情報交換をし、本人の今後の為の支援を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した対応はしているが、馴染みになることによる、不適切な対応になることもあるが、常に反省をし、改めるように、話し合うことが出来ている。個人情報の保護には努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を表せる、スタッフとの関係が出来ていると思う。そしてそれを裏切らないように支援している。添えないときは丁寧に話し、納得をして貰えるように勤めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や外出などは前もって伝え、促しながらも、本人の希望に添って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、馴染みの店を利用している方もいれば、ホームにきて貰っている理美容を利用している方もいる。本人の今までしてきた、おしゃれに添うように支援している。	○	一カ月おきに、地元美容室、理容室からホームに来てもらって、本人と家族の希望で、どちらか選んで利用して貰っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて準備、かたづけの役割が決まっていて、わいわい準備して、わいわい食べて、わいわいかたづけしている。	○	月に一度のペースで、外出に出かけている。又、お弁当を持って公園などにも出かけてり、ホームの庭で食べたりもしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品の買い物の支援をし、居室で自分で管理している方もいれば、スタッフが管理し、楽しんで貰っている方もいる。飲み物はいろいろ楽しめるようにしている。	○	梅酒、梅ジュース、しそジュース、ぶどうジュース、金柑煮など、季節に合わせて、入居者と一緒に作り、楽しんでいる。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人ひとりの排泄チェックをつけ、パターンに応じ、誘導を行っている。トレーニングパンツやパットなど、その方や状態に合わせて、使い分けしているが、結果が出ている人もいるが、全員とはいえない。	○	全ての人に排泄誘導している。おむつ交換の人はいない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は毎日行っている。希望により毎日入浴する人もいる。時間はほぼ決まっているが、希望があれば、朝だったり、夜だったりもする。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状態や体調に合わせて支援しているが、昼夜逆転になる場合は、原因究明をして改善するよう努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの能力に合った役割があり、それをする事により、他者に労をねぎらわれている。又、個人で見たいテレビは居室で楽しめている。	○	役割は入居者の皆さんの話し合いで決めました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意の下に、お子遣いをお預かりしていて、買い物の際はそれぞれで、支払いをするように支援している。又、個人で所持している場合は、見守りの中で使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調と天候に応じて、全員で出かけられる場合は可能な限り支援し、個人では食材を求める際に同行し、嗜好品などの買い物支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	なるべく機会をつくっている。外食の際には、希望により家族も一緒に行けるように支援している。お墓参り、家族の行事などにも参加できるように働きかけ、協力して貰っている。	○	季節の花々を求めて見ドライブをしている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望にて支援している。家族にも協力して貰っているが、手紙を書くことはあまりない。	○	今後は手紙を書く支援に取り組みたい。1人は家族との交換日記の支援が出来ている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも受け入れている。そして面会しやすい雰囲気作りに心がけ、家族への面会の促しに勤めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	併設の居宅事務所やデイサービスの協力の下に安全を守れるようにしていきたい。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	ヒヤリハットした事柄があれば記録して、大きな事故にならぬように努めている。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	今後、人工呼吸、心臓マッサージなども取り入れた訓練を、実施し、定期的に行ってほしい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	今後、地震、水害などの訓練もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	出来るだけ、自由に暮らしていただけていると思っているが、年々衰える能力によって、リスクをもう一度考え直す必要がある。	○	定期的にリスクマネジメントを取り入れる機会を作っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎月の体重測定、毎日のバイタルチェック、異変時バイタルチェックし、状態観察した上で、必要あれば、家族にも連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりファイルしていて、スタッフ全員で共有している。又、ある人は、スタッフが家族に同伴して、医師に様子を伝え、処方を変えてもらった例もある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動、腹部マッサージ、水分補給を行い、排便チェックし、排便コントロールに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日5回のリビングで摂る水分のほかに、居室にペットボトルに水を用意して、夜間でも摂れるように支援している。その人その人に合った食事の形態、キザミ、おかゆ、トロミ、二度炊きなどを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	社内マニュアルを製作しそれにしたがって実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はストックしないよう1～2日で使い切るようにしている。調理器具、食器は、乾燥機にて消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を作り、いつでも花が絶えないようにして、親しみやすくしているが、交通量が多い道路に面していて、利用者がいつでも出入りできるという点では安心が出来ない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下などは季節感を取り入れ楽しめるようにしている。トイレは1日4回は掃除を義務付け汚染時は、その都度掃除をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	我ホームの入居者は楽しんで過ごすのが好きでほとんどリビングで過ごされる。又、テレビを囲んでソファでくつろがれる人がいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ご家族の協力もあり、できるだけ馴染のあるもの を持って来てもらっている。それがなかなか出来 ない方についてはスタッフが工夫をしてその人ら しい居室作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気は特に心がけている。温度調節も利用者の状 況に合わせて行っている。冬場は湯たんぽで体 を温めバスタオルを湿らせて室内乾燥を防いで いる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者の動線には、至る所に手すりを設置して いる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室にはご家族に協力してもらい、のれんを下げ 自室が分かる様にしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	居室のベランダには、プランターに花植えをし、 楽しんでもらっている。中庭には芝生、花壇があ り、散歩道を利用したり草花を楽しんだり出来 るようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

和やかな家庭の温もりがある、1人ひとりに寄り添った優しい介護。ここは、安心できる、居心地のいい別宅と考え、本人も、別宅の家族も、行ったり来たりして、今までのかかわりの中で自由に安心して暮らせるように支援している。そして、その方たちの生き方から、介護する私たちが、学び、成長し、寄り添い、支え合う者同士が、共に暮らし、共に生きるホームを全員で目指している。